

見えてきたモノサシ達(一例)

大月町……………笑顔

大月の笑顔の元を探ってみると実はその大半が「人と人のつながり」であり、そのつながりに「自然からの恵み」がかかわることが多い。つまり、笑顔の数や質が大月のモノサシになるのではないだろうか。

香美市 平山地区……………休耕地の活用

きっかけは平山地区にある「ほっと平山」(体験型宿泊施設)でのワークショップで出たアイデアの一つでした。休耕地をよみがえらせ、小麦を栽培して小麦粉を作った。現在その小麦粉がさまざまな食材となり地域経済に還元し始めている。もしかしたら、「休耕地の復活」は地域の力のモノサシになるのではないだろうか。

奈半利町 米ヶ岡地区……………外部からの視点

地域資源を活かしたイベント等により地域外からの人が訪問する。外部からの視点が地域に新しい風をふきこませる可能性をモノサシにできないだろうか。

高知市内の主婦グループ……………選択できるコト

自分たちの暮らしをみなおすきかけとして出てきたキーワードが「選択できる」だった。考え、学ぶ機会を作る手段の一つとして、「モノサシを作る≡暮らしを考える」きっかけになる可能性がある。

column

「あなたは今日、いくつの笑顔に出会いましたか？」

岩瀬文人

四国の南西端、大月町。都会から引っ越してきた当時、一番驚いたのが「もらいもの」の多さだった。「食べきれんばあできたけん食べてや」ともらう特大キュウリ。「ワレさばけるかえ?まあ食べてみたや」と漁師からもらうピチピチのカツオ。もらう私はもちろん嬉しいが、くれる人もとびきりの笑顔。そしてもらうものは圧倒的に食べ物が多い。それもとびきりの鮮度。さっきまで畑になっていたもの、さっきまで海で泳いでいたものたち。お金はなくても、豊かな実りと黒潮の恵みが人々の暮らしを支えている。おばちゃんの家には男手がないから、こんどの休みにはお返しに畑のまわりの草を刈ってあげよう。

時には食べきれないほどのもらいもの。

「さっき別の人からもらったから…」

「あのな、やる言うのは心や。ワレに何かやりたいと思う人の気持ちを無にしたらいかん。食べきれんかったら誰か世話になりよる人にまわしたらえい。」こうして、持ってきてくれる人、嬉しくいただく私、お裾分けをする私、喜んでもらってくれる友達と、

笑顔の連鎖がつながっていく。

満員電車の車内、信号待ちのスクランブル交差点、時計を気にしながら列に並ぶ定食屋の店先、カートを押して品定めをするスーパーの食品売り場、コンビニのイートインで肉まん食べているのは小学生か…。便利な暮らしと数え切れない人に囲まれた都会で、あの日、いくつの笑顔に出会えただろう。

いつもの景色、いつもの顔。パンがないけどもうスーパーは閉まったから明日の朝はご飯炊かなくちゃ。昨日の陽気でフキノトウが顔を出した。隣のおんちゃんが明日病院に連れて行ってほしいって、新玉ネギ置いてったよ。「水仙がきれいに咲いたねえ」日課の散歩で家の前を通るおばちゃんたちの声。今日会った人の顔を数えるのはたやすいこと。思い出す顔は、みんな笑顔ではなかったか。

高知の田舎、海辺の暮らしで出会う笑顔の多さは、私たちの暮らしを支えてくれる自然の豊かさを、確かに示していると思う。